

昭和 40 年度研究プロジェクト

本研究所の発足は 40 年 1 月であるが、常勤研究員の多くが着任を見たのは 3、4 月になってからであった。さっそく、研究所の研究活動の進め方について協議がなされ、数次の検討を経て、当面の研究プロジェクトが定められたのは 5 月である。いわゆる研究会方式による研究活動はこのプロジェクトに沿って開始されることになった。研究会の内容については順を追って紹介したいと思うが、そのプロジェクトは次の通りである。

昭和 40 年度研究プロジェクト

本研究所は発足後日も浅いので、本年度の研究はもっぱら基礎固めに主力を注ぐことにした。研究会を五つのグループに分け、それぞれについてテーマを定めたのであるが、プロジェクトの大部分はだいたい 2 年間に完成させることを目標とし、第 1 年目たる本年度ではそのうちとくに基礎的準備的なものに限定することにした。いずれ 3 年目からは特殊な統一テーマをかかげることになると思われるが、本年度はそこまで熟していない。

ただし五つの研究会は固定したものでなく、年年の研究計画によってその都度グループ分けをするものであり、またプロジェクト実施の途中で必要とあれば別に特殊テーマで研究会を開くこともあるし、順序や方法も変更することがある。

〔第 1 研究会〕

1. 研究課題

国民所得における社会保障の統計的研究

2. 研究目的

本研究は国民所得統計および関連諸統計資料の綿密な比較検討を通じて社会保障費の確定を行ない、その推移変遷を明らかにすることを主要な目的としているが、第 1 年目はとくに基礎的研究に重点をおき、そのうえで経済の発展段階に対応した社会保障のパターンを理論的実証的に解明し、さらに低所得階層に対する社会保障の所得再分配

効果、社会保障費における主要項目の経済効果、社会資本の計測、社会資本と社会開発の関係等、今日解決を迫られている諸問題の基礎的、総合的研究を進める予定である。

3. 研究内容

- 国民所得白書、厚生白書、ILO 統計、その他関係諸統計資料における社会保障費の比較検討
- 社会保障費の国際比較——その方法と実状
- 経済発展と社会保障の関連——発展段階および発展態様に対応した社会保障制度の類型
- 社会保障の所得再分配効果——とくに低所得階層への経済効果
- 社会保障費における主要項目の経済効果
- 社会資本の計測と社会開発との関係

〔第 2 研究会〕

1. 研究課題

経済指標、社会指標、地域指標の活用に関する方法論的研究

2. 研究目的

経済成長によって全般的には、国民総所得の上昇が期待できるが、一方、地域住民の生活実態面を直視すると、地域格差、階層間格差がはなはだしく、しかも、その実態はなかなか把握し難い。

これらの点に着目して、厚生省は生活指標調査を逐年実施し、国民経済研究所をはじめ広く各方面において、生活全般にわたる共通の指標の設定ならびに総合化に関する研究がすすんでいる。本研究はこれら指標の活用についての方法論を究明しようとする。

3. 研究内容

- 関連資料の吟味、検討

厚生省における諸調査結果、厚生科学研究の成果、経済企画庁、国民生活研究所などにおけるこの種研究結果、並びに国連の各種資料の吟味検討を行なう。

- 指標活用の方法論的研究

各指標のウェイトの決定、1次または2次結合の可能性の検討、これらの結論により、社会保障関係の公共投資の地域に及ぼす効果測定が可能であるか否か、その方法論の研究を行なう。したがって小規模な実験調査、典型調査をも実施することがある。

〔第3研究会〕

1. 研究課題

現代社会の構造的変動と社会保障

2. 研究目的

近年の工業化、都市化の展開は、各国の社会、人口の構造に大きな影響を与えている。本研究は日本および諸外国の最近の社会的変動の動向と問題点を研究するとともに、このもとでの社会開発の理念および計画を検討し、社会保障の今日的課題を明らかにしようとするを目的としている。とくに本年度では最近の人口および就業構造の変化と問題点を明らかにし、次年度以降の研究の基礎的整備を行なう。

3. 研究内容

- a. 社会的変動の動向とその背景
- b. 社会的変動に伴う人口の変化
- c. 社会的変動と就業構造
- d. 社会的変動と諸階層の動向
- e. 農山漁村の動向
- f. 都市社会の変貌と問題点
- g. 社会的変動と社会開発
- h. 現代社会における社会保障の性格と役割

〔第4研究会〕

1. 研究課題

生活構造と社会保障

2. 研究目的

社会保障の目標を人間の福祉の向上に求めるとするならば、その福祉の内容を明らかにすることはとりわけ必要である。この研究では近年ドラ

チックな形であらわれている社会的変動のもとにあって、人間生活をその基礎的単位である家族の枠組の中で捉え、家族の諸類型と発展の過程で家族周期の問題を研究し、これが生活構造および生活環境に与える影響を具体的に明らかにする。さらに、それに基づいて人間生活の福祉の向上のための対策を検討し、社会福祉、社会保障の方向性を求めようとするものである。このため特に本年度は基礎的な理論的枠組の検討と設定をめざして研究を行なう。

3. 研究内容

- a. 生活構造の課題
- b. 家族周期と生活構造
- c. 家族と生活環境
- d. 生活様式の変化と社会開発
- e. 生活構造と社会保障

〔第5研究会〕

1. 研究課題

各国社会保障制度の比較研究——本年度はとくにアメリカおよびイギリスについて研究する——

2. 研究目的

社会保障制度は各国の経済的社会的諸要因を背景として、それぞれ独自に発展を見せつつ、また相互に関連し、影響しあってきた。本研究はそれらの事情を中心として、各国社会保障制度の個別的研究をすすめるとともに、比較検討を加えようとするものである。

3. 研究内容

- a. アメリカおよびイギリスにおける社会保障制度の成立と発達過程の比較研究
- b. ドイツ社会保険の発達、特に第2次大戦前後における変化の研究
- c. 発展途上にある諸国の社会保障制度の導入過程および実施上の諸問題の研究——特にインドにおける——